



# Red Hat Decision Manager 7.5

## Business Central におけるアセットの管理

ガイド



# Red Hat Decision Manager 7.5 Business Central におけるアセットの管理

---

## ガイド

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

## 法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Managing\_assets\_in\_Business\_Central.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本書は、Business Central でアセットを管理、修正、作成、および削除する方法を説明します。

---

## 目次

はじめに .....	3
第1章 アセットの概要 .....	4
第2章 アセットの種類 .....	5
第3章 アセットの作成 .....	9
第4章 アセットの名前変更、コピー、または削除 .....	10
第5章 アセットのメタデータとバージョン履歴の管理 .....	11
第6章 タグによるアセットのフィルターリング .....	13
第7章 アセットのロック解除 .....	15
付録A バージョン情報 .....	17



## はじめに

プロセス管理者は、Red Hat Decision Manager の Business Central を使用して、ルール、ビジネスプロセス、デシジョンテーブルなどのアセットを管理します。

### 前提条件

- Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2 がインストールされている。詳細情報は、[Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2 Installation Guide](#)を参照してください。
- Red Hat Decision Manager がインストールされ、Decision Server で設定されていること。詳細は、[Red Hat JBoss EAP 7.2 への Red Hat Decision Manager のインストールおよび設定](#)を参照してください。
- Red Hat Decision Manager が稼働し、**developer** ロールで Business Central にログインできる。詳細は、[Red Hat Decision Manager インストールの計画](#)を参照してください。

## 第1章 アセットの概要

Business Central で作成されるビジネスルール、プロセス定義ファイル、その他のアセットおよびリソースは、Decision Server がアクセスするアーティファクトリーポジトリ (ナレッジストア) に保存されます。

アーティファクトリーポジトリは、ビジネスナレッジを保存するために一元化されたりポジトリのことです。複数の GIT リポジトリに接続して、異なる場所にあるさまざまな種類のナレッジおよびアーティファクトを保存し、1つの環境から GIT リポジトリに接続します。GIT は分散バージョン管理システムであり、リビジョンをコミットオブジェクトとして実装します。変更をリポジトリに保存するたびに、GIT リポジトリに新規コミットオブジェクトが作成されます。同様に、既存リポジトリをコピーすることもできます。通常、このコピープロセスはクローンと呼ばれ、作成されるリポジトリはクローンと呼ばれます。すべてのクローンには、ファイルのコレクションの完全な履歴が含まれ、クローンされたりポジトリには、元のリポジトリと同じコンテンツが含まれます。

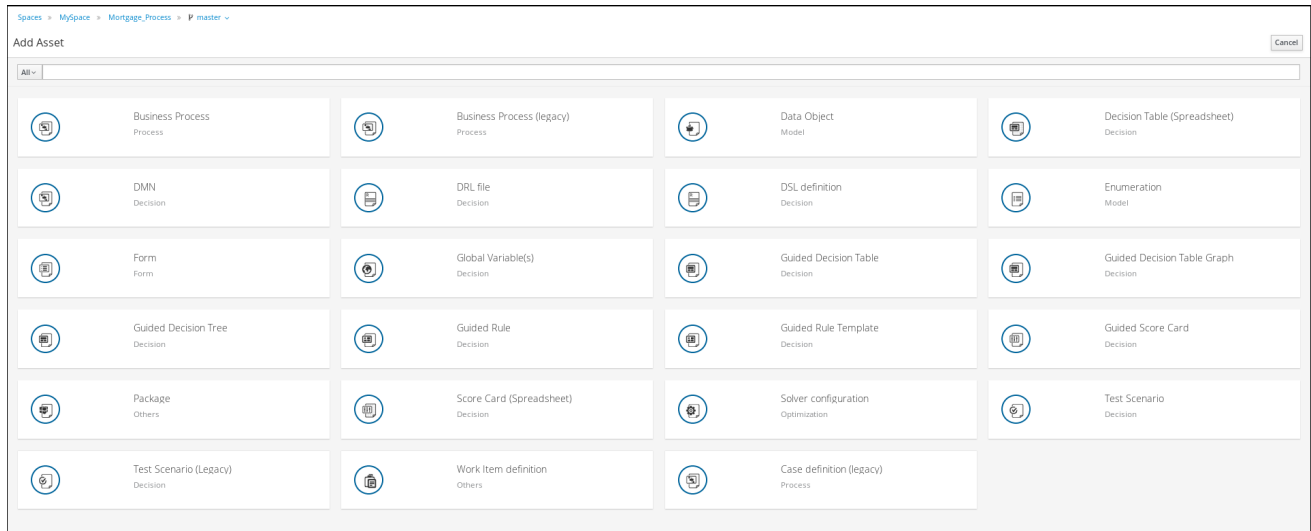
Business Central は、保存したコンテンツを表示して更新できる Web フロントエンドを提供します。アーティファクトリーポジトリアセットにアクセスするには、Business Central で **Menu → Design → Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。



## 第2章 アセットの種類

Business Central リポジトリでバージョン管理されているものはすべてアセットです。プロジェクトには、ルール、パッケージ、ビジネスプロセス、デシジョンテーブル、ファクトモデル、ドメイン固有言語 (DSL)、またはプロジェクト要件に固有のその他のアセットを含めることができます。

次の図では、Red Hat Decision Manager 7.5 で利用可能なアセットを紹介します。

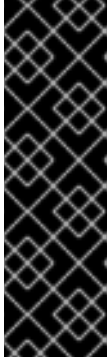


### 注記

Case 定義アセットタイプは、Case プロジェクトでのみ利用できます。

以下のセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.5 の各アセットを説明します。

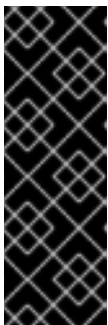
- **ビジネスプロセス**  
ビジネスプロセスは、ビジネス目標を達成するのに必要なステップを説明するダイアグラムです (詳細は [Red Hat Decision Manager ビジネスプロセス管理ガイド](#) を参照してください)。
- **ビジネスプロセス (レガシー)**  
Business Central のレガシープロセスデザイナーは、Red Hat Decision Manager 7.5.1 で非推奨になります。今後の Red Hat Decision Manager リリースで削除される予定です。そのため、レガシーのプロセスデザイナーには新しい機能拡張や機能は追加されません。新しいプロセスデザイナーを使用する場合は、お使いのプロセスを新しいデザイナーに移行し始めます。新しいプロセスデザイナーですべての新規プロセスを作成します。新規デザイナーへの移行に関する詳細は、[Business Central におけるプロジェクトの管理](#) を参照してください。
- **ケース管理 (プレビュー)**  
ケース管理は、Business Process Management (BPM) の拡張機能で、適用可能なビジネスプロセスを管理します。ケース管理は、ルーティンで、予測可能なタスクを対象する BPM の効率指向アプローチとは対照的に、繰り返さず、予測できないプロセスに対する問題解決を提供します。ここでは、プロセスが前もって予測できない、一回限りの状況が管理されます。



## 重要

ビジネスプロセスアプリケーションサンプルには、テクノロジープレビューとして提供されている機能が含まれます。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat 製品のサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされておらず、機能的に完全ではない可能性があるため、実稼働環境での使用は推奨されません。これらの機能は、今後の製品機能への早期アクセスを提供することで、お客様が機能をテストし、開発プロセス中にフィードバックを提供できるようにしています。Red Hat テクノロジープレビュー機能の詳細は [テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

- ケース定義 (レガシー)  
ケースは、Business Central のケース定義プロセスデザイナーを使用して作成されます。ケース作成は、ケース管理に基づいて、各ケースに固有のゴールおよびタスクを設定します。ケースフローは、動的タスクまたはプロセスを追加して、実行時に動的に変更できます。
- データオブジェクト  
データオブジェクトは、作成するルールアセットの設定要素です。データオブジェクトは、プロジェクトで指定したパッケージに Java オブジェクトとして実装されているカスタムのデータタイプです。たとえば、データフィールドの Name、Address、および Date of Birth を使用して、ローン申請ルールに詳細な個人情報を指定できます。このカスタムのデータタイプは、アセットとデシジョンサービスがどのデータに基づいているかを指定します。
- デシジョンテーブル (スプレッドシート)  
デシジョンテーブルは、スプレッドシートまたは Red Hat Decision Manager ユーザーインターフェイスにガイド付きデシジョンテーブルとして保存されるルールの集まりです。外部の XLS ファイルまたは XLSX ファイルにルールを定義したら、Business Central のプロジェクトに、そのファイルをデシジョンテーブルとしてアップロードします。



## 重要

通常は、デシジョンテーブルのスプレッドシートを1つだけアップロードする必要があります。これには、Business Central の1つのルールパッケージに必要なすべての **RuleTable** 定義が含まれます。異なるパッケージに複数のデシジョンテーブルのスプレッドシートをアップロードすることはできますが、同じパッケージに複数のスプレッドシートをアップロードすると、**RuleSet** 属性または **RuleTable** 属性が競合するコンパイルエラーが発生する可能性があるため、これは推奨されません。

- DMN  
Decision Model and Notation (DMN) は、ビジネスデシジョンの設計とデシジョン実装の間のギャップを標準的に埋めていきます。Business Central の DMN デザイナーを使用すると、DMN 意思決定要件ダイアグラム (DRD) を設計し、完全に機能的な DMN 意思決定モデルの意思決定論理を定義できます。
- DRL ファイル  
ルールファイルは一般的に、.drl 拡張子を持つファイルです。DRL ファイルには、複数のルール、クエリー、関数だけでなく、お使いのルールやクエリーが割り当てて、使用する import、global、属性などのリソース宣言が含まれています。ただし、複数のルールファイルでルールを使用することもできます (その場合は、.rule という拡張子が推奨されますが必須ではありません)。ルールを複数のファイルで使用すると、多くのルールを管理しやすくなります。DRL ファイルは単なるテキストファイルです。
- DSL 定義

ドメイン固有言語 (または DSL) は、問題があるドメインに対するルール言語を作成するために使用します。DSL 定義のセットは、DSL センテンスから DRL コンストラクトへの変換から設定され、基礎となるすべてのルール言語とデシジョンエンジン機能の使用を可能にします。

- 列挙  
データの列挙は任意のアセットタイプで、ガイド付きデザイナーのドロップダウンリストを提供するように設定できます。これらは他のアセットと同じように保存および編集され、所属するパッケージに適用されます。
- フォーム  
フォームは、ビジネスプロセスのユーザーデータを集めるのに使用されます。Business Central は、フォームを自動的に生成するオプションを提供しますが、特定のビジネスプロセス要件を満たすように変更できます。
- グローバル変数  
グローバル変数を使用すると、ルールに利用できるアプリケーションオブジェクトを作成できます。一般的に、グローバル変数は、ルールが使用するデータまたはサービス (特に、ルール結果で使用されるアプリケーションサービス) を提供したり、ルールからデータ (ルール結果で追加されるログや値など) を返したり、ルールがアプリケーションと対話してコールバックを行ったりするために使用されます。
- ガイド付きデシジョンテーブル  
デシジョンテーブルは、スプレッドシートまたは Red Hat Decision Manager ユーザーインターフェイスにガイド付きデシジョンテーブルとして保存されるルールの集まりです。
- ガイド付きデシジョンテーブルのグラフ  
ガイド付きデシジョンテーブルのグラフは、1つのデザイナーに表示される関連するガイド付きデシジョンテーブルの集まりです。このデザイナーを使用して、1つの場所で関連するさまざまなデシジョンテーブルを視覚化し、使用できます。さらに、条件またはアクションが同じデータ型を、別のテーブルの条件またはアクションとしても使用する場合、テーブルは、テーブルのグラフデザイナーの行に物理的にリンクされます。  
  
たとえば、1つのデシジョンテーブルがローンの申請料を決定し、別のテーブルがその申請料を使用してその他のアクションを決定する場合、ガイド付きデシジョンテーブルのグラフでは2つのデシジョンテーブルがリングされます。
- ガイド付きルール  
ルールは、デシジョンエンジンが実行するロジックを提供します。ルールには、名前、属性、ルールの左側にある **when** ステートメント、およびルールの右側にある **then** ステートメントが含まれます。
- ガイド付きルールテンプレート  
ガイド付きルールテンプレートは、Drools Rule Language (DRL) に組み込まれ、プロジェクトのデシジョンサービスの中心となる、複数のルールで再利用可能なルール構造を提供します。
- パッケージ  
すべてのアセットは Business Central のパッケージに含まれます。パッケージはルールのディレクトリー、および名前空間となります。
- Solver の設定  
Solver 設定は Solver デザイナーにより作成され、KJAR のデプロイ後に Execution Solver またはプレーンな Java コードで実行できます。Business Central に Solver 設定を修正および作成できます。
- テストシナリオ  
Red Hat Decision Manager のテストシナリオでは、ルール、モデル、およびイベントの機能を

実稼働環境にデプロイする前に検証できます。テストシナリオでは、ファクトまたはプロジェクトモデルのインスタンスと類似する条件のデータを使用します。このデータは指定のルールセットと照合され、想定された結果が実際の結果と一致するとテストに成功します。想定された結果が実際の結果と一致しないと、テストは失敗します。

- テストシナリオ (レガシー)

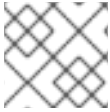
Red Hat Decision Manager 7.5 で、デフォルトのテストシナリオアセットが新しくなりました。機能は完全ではないため、Red Hat Decision Manager 7.5 では、テストシナリオもサポートします。したがって、ビジネスプロセスには2つのテストシナリオが提供されます。新しいデフォルトのプロセスデザイナーを使用する **ビジネスプロセス** と、古いプロセスデザイナーを使用する **ビジネスプロセス (レガシー)** です。

- 作業アイテムの定義

作業アイテムの定義は、カスタムタスクの表示方法を定義します。たとえば、タスク名、アイコン、パラメーター、その他の属性などです。

## 第3章 アセットの作成

Business Central プロジェクトに、ビジネスプロセス、ルール、DRL ファイル、その他のアセットを作成できます。



### 注記

ビジネスプロセスを移行した場合は元に戻すことができません。

### 手順

1. Business Central で、**Menu** → **Design** → **Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。たとえば **Evaluation** です。
2. **Add Asset** をクリックし、アセットの種類を選択します。
3. **Create new asset\_type** ウィンドウに必要な情報を追加して、**OK** をクリックします。

図3.1 アセットの定義

**Create new DRL file** ×

DRL file\*  
Name...

Package  
com.myspace.myproject

Use Domain Specific Language (DSL)  
 Show declared DSL sentences

+ Ok Cancel



### 注記

プロジェクトを作成していない場合は、プロジェクトを追加するか、サンプルプロジェクトを使用するか、既存のプロジェクトをインポートします。 [Business Central におけるプロジェクトの管理](#) を参照してください。

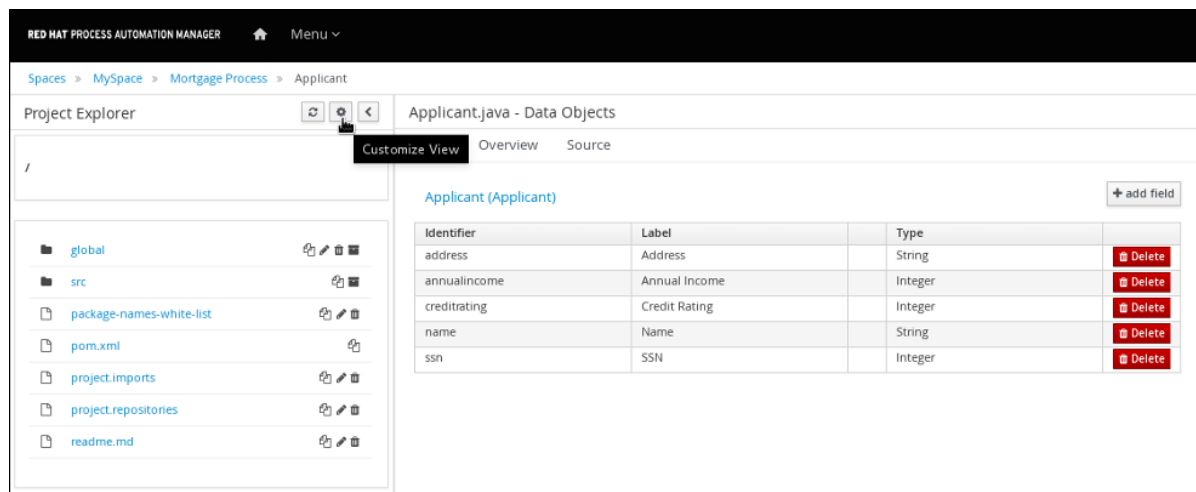
## 第4章 アセットの名前変更、コピー、または削除

アセットを作成して定義したら、必要に応じて **Project Explorer** の **Repository View** を使用して、アセットのコピー、名前変更、削除、またはアーカイブを行います。

### 手順

1. Business Central で、**Menu** → **Design** → **Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。
2. 変更するアセットをクリックします。
3. 左上隅の  をクリックして **Project Explorer** を展開します。
4. **Project Explorer** ツールバーのギアアイコン  をクリックします。
5. **Repository View** を選択して、アセットを作成するディレクトリーおよびファイルを表示します。
6. 必要に応じて、一覧にあるアセットのコピー、名前変更、削除、またはアーカイブを行う各アセットの横にあるアイコンを使用します。すべてのアセットに利用できないオプションもあります。

図4.1 アセットのコピー、名前変更、削除、またはアーカイブ



7. アセットのコピー、名前変更、削除には、以下のツールバーボタンを使用します。

図4.2 ツールバーオプション



## 第5章 アセットのメタデータとバージョン履歴の管理

Business Central の多くのアセットには、アセットに関連付けられたメタデータおよびバージョン情報があり、プロジェクトでのアセットの識別と整理に利用できます。Business Central のアセットデザイナーで、アセットのメタデータおよびバージョン履歴を管理できます。

### 手順

1. Business Central で、**Menu → Design → Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。
2. 一覧からアセットを選択して、アセットデザイナーを開きます。
3. アセットデザイナーウィンドウで **Overview** を選択します。アセットに **Overview** タブがない場合は、メタデータがそのアセットに関連付けられていません。



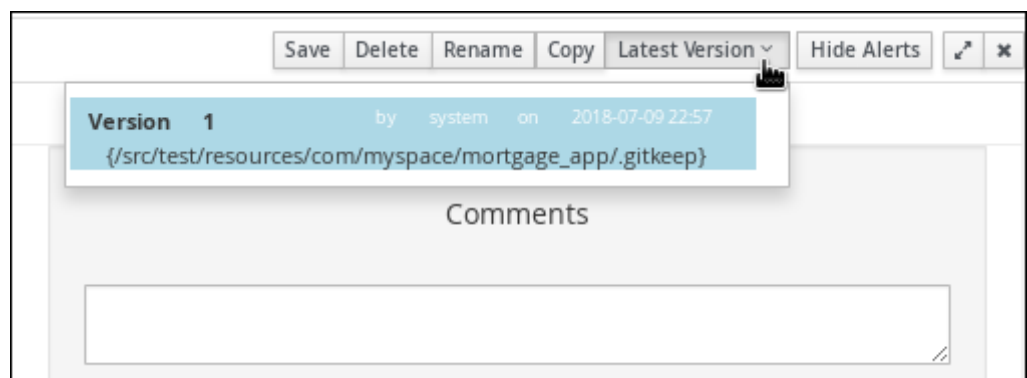
4. **Version History** タブまたは **Metadata** タブを選択して、バージョンおよびメタデータの詳細を編集および更新します。



### 注記

または、アセットデザイナーの右上の **Latest Version** をクリックしても、アセットの作業バージョンを更新できます。

図5.1 アセットの最新バージョン



5. **Save** をクリックして変更を保存します。



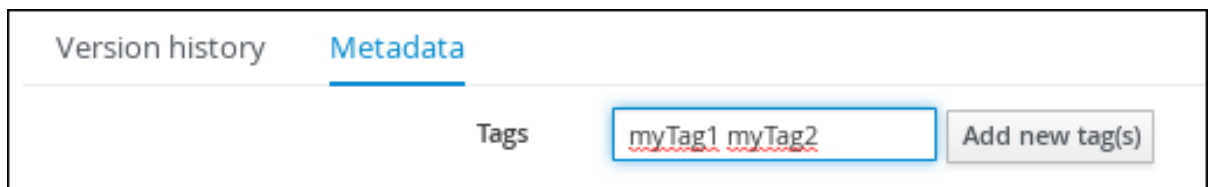
## 第6章 タグによるアセットのフィルターリング

Project Explorer で、各アセットのメタデータにタグを適用し、その後タグでアセットをまとめることができます。この機能を使用すれば、特定のカテゴリーのアセットをすばやく検索できるようになります。

### 手順

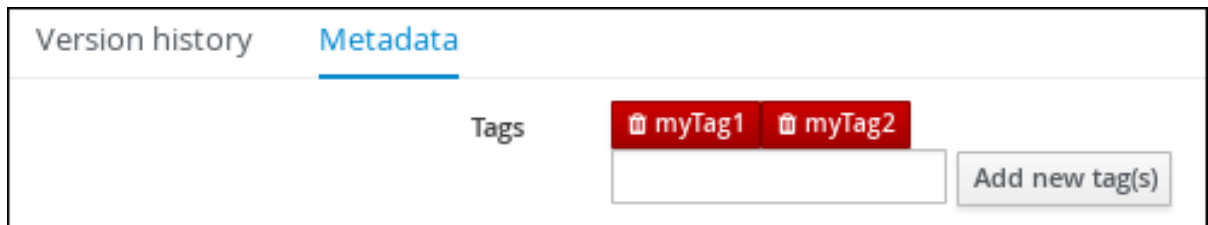
1. Business Central で、**Menu** → **Design** → **Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。
2. 以下の一覧からアセットを選択して、アセットエディターを開きます。
3. アセットエディターウィンドウで、**Overview** → **Metadata** に移動します。
4. **Tags** フィールドで、新しいタグの名前を入力し、**Add new tag(s)** をクリックします。空白文字でタグ名を区切り、複数のタグをアセットに割り当てることができます。

図6.1 タグの作成



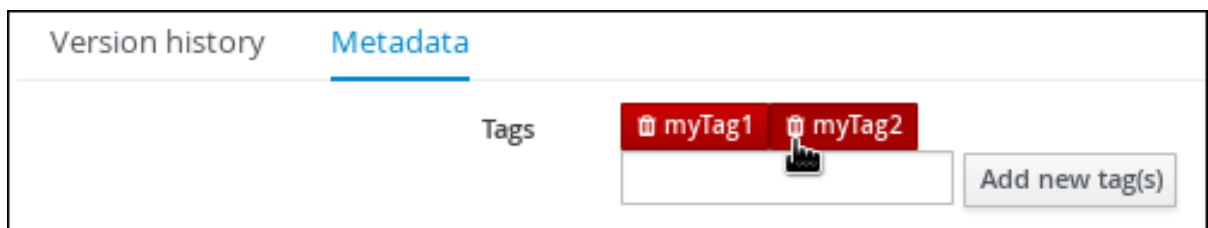
割り当てたタグは、ボタンとして Tags フィールドの横に表示されます。

図6.2 メタデータビューのタグ



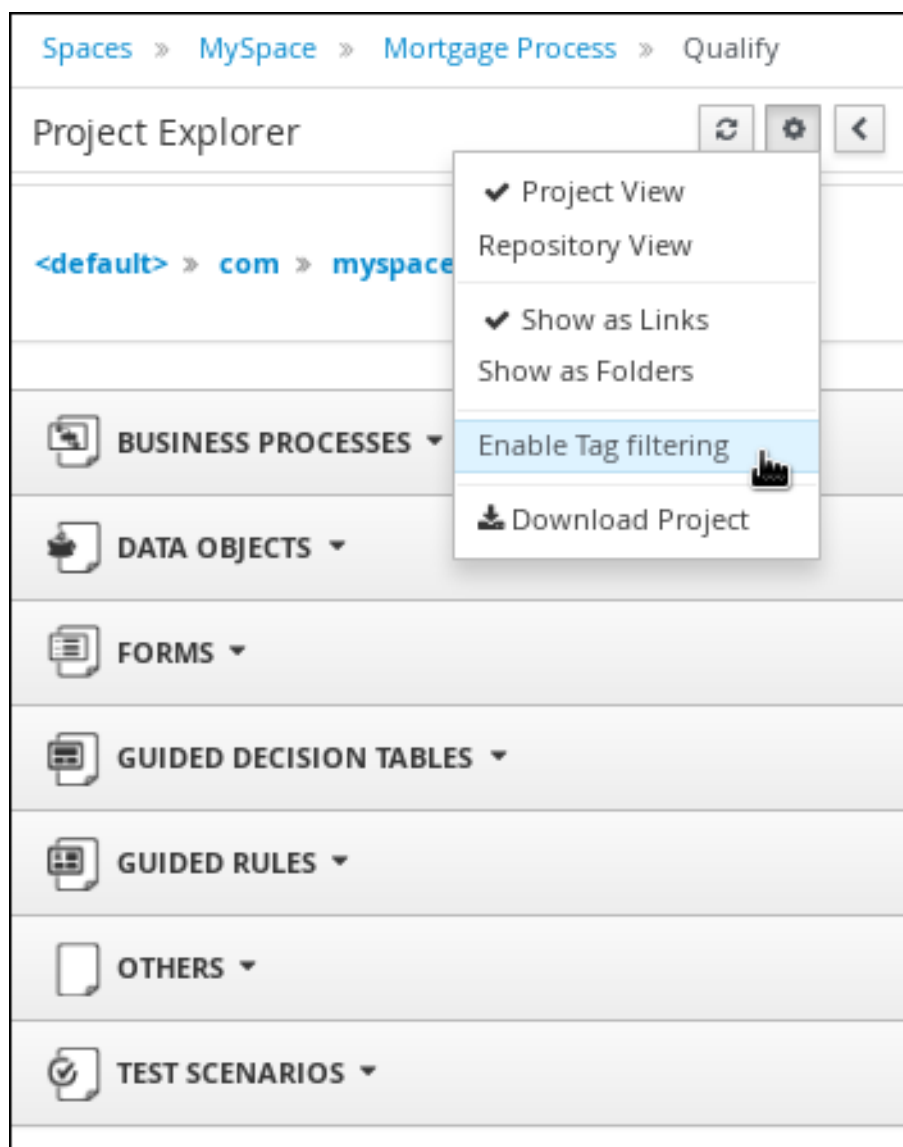
タグを削除するには、ごみ箱アイコンが付いたタグボタンをクリックします。

図6.3 メタデータビューでタグの削除



5. **Save** をクリックして、メタデータ変更を保存します。
6. 左上隅の  をクリックして **Project Explorer** を展開します。
7. **Project Explorer** ツールバーのギアアイコン  をクリックし、**Enable Tag filtering** を選択します。

図6.4 タグフィルターリングの有効化



これにより、Project Explorer に **Filter by Tag** ドロップダウンメニューが表示されます。

図6.5 タグによるフィルター



このフィルターでアセットを並べ替え、選択したメタデータタグを含むすべてのアセットおよびサービスタスクを表示します。

## 第7章 アセットのロック解除

デフォルトでは、Business Central でアセットを開いて修正すると、アセットは自動的にロックされ、マルチユーザー設定で競合しないように排他的に使用されます。セッションが終了した場合や、アセットを保存または閉じない場合は、ロックが自動的に解除されます。このロック機能により、ユーザーが互いに変更を上書きできないようにします。

ただし、別のユーザーがロックしたファイルの編集が必要な場合は、アセットのロックを強制的に解除できます。

### 手順

1. Business Central で、**Menu → Design → Projects** に移動して、プロジェクト名をクリックします。
2. 一覧からアセットを選択して、アセットデザイナーを開きます。
3. **Overview → Metadata** に移動し、**Lock Status** を表示します。

図7.1 メタデータのロック解除ビュー

The screenshot shows the 'Form Modeler [Applicant]' interface. The 'Overview' tab is active, displaying metadata for a form asset. The 'Type' is 'Forms'. The 'Description' field contains the text 'No description yet - what does this rule do?'. The 'Used in projects' field is 'Mortgage Process'. The 'Last modified' and 'Created on' fields both show 'By system on 2018-07-09 22:57'. Below this, the 'Metadata' tab is active, showing fields for 'Tags', 'Note', 'URI', 'Subject', 'Type', 'External link', and 'Source'. The 'Lock status' field at the bottom indicates 'Not locked'.

アセットが別のユーザーによってすでに編集されている場合は、以下が **Lock status** フィールドに表示されます。

#### Locked by <user\_name>

4. **Force unlock asset** をクリックして、ロックを解除します。  
以下の確認ポップアップメッセージが表示されます。

**Are you sure you want to release the lock of this asset? This might cause <user\_name> to lose unsaved changes!**

5. **Yes** をクリックして確定します。

アセットのロックが解除された状態に戻り、ロックアイコンオプションがアセットの横に表示されます。

## 付録A バージョン情報

本書の最終更新日: 2021年11月15日(月)